

### 第3回 直江津地区中心市街地活性化協議会準備会 議事要旨

日 時：平成 20 年 2 月 25 日（月） 14:55～15:40

場 所：上越商工会議所 3 階大会議室

出席者：別紙名簿参照（出席者 30 名（代理 4 名）、服部氏、市担当職員 6 名、会議所担当者 5 名）

#### 議事要旨

##### 1. 会頭あいさつ

中心市街地活性化基本計画について、重要な問題であるので、精力的に審議してもらいたい。国から早急に認定を受けて、一日でも早く活性化に取り組んでいかなければならない。旧高田共同ビルについては、地権者の理解を得ながら、駐車場も含めて再開発事業として進めていきたいので、市にも協力を願う。地元も戦略補助を活用して効果的に事業を進めていくことを検討している。

##### 2. 協議会会長あいさつ

前回の協議会で基本計画への理解は得たと考えている。民間、行政の役割や優先順位をつけていく必要があると考えているので、それを中心に取りまとめていきたい

##### 3. 検討内容及び意見交換

上越市直江津地区中心市街地活性化基本計画（案）の説明

上越市中心市街地活性化推進室：折橋室長から、資料 1 に基づき説明。

上越市直江津地区中心市街地活性化基本計画（案）の主な事業の取り組み状況について報告

上越商工会議所：渡部次長から、資料 2 に基づき説明。

直江津地区について意見交換（：委員、：上越市担当者、：服部アドバイザー）  
佐藤会長より、自分たちで実行していかなければならないものと行政に要望するものを区別して、協議を進めていただきたい旨発言があり、協議を開始した。

前回、数値目標が低い・マイナスということに意見があったが、前回の発言者は今回の提示数値をどのように考えたか？

現状数値を近々に調査し、現状に即した数値を基に、各事業の予想効果数値をつみあげていくという説明を聞いて納得した。基本計画完成時には、良い目標数値がでてくることを期待している。

基本計画を国に認めてもらわなければならない。そのためには、もっと事業計画を具体的にしないといけないのではないかと？

具体的に掲載することは事業者との兼ね合いもあるため難しい。しかし、ベースがなければ、現状-目標数値は示すことができない。事業提案した後、主体者が実行していくことが求められる。目標に近づけるように取り組んでもらいたい。

事業は具体的になってきていると思う。

直江津地区は目玉となる事業がない中で知恵を出している。図書館が平成 22 年春までに完成予定であるが、ワークショップの中では、地元住民を中心とした民間で街の中にプレ図書館を設置することに取り組み、更に図書館・社会教育館の機能充実にも関わっていきたい。行政もプロセスから加わってもらい、一緒に取り組んでもらいたい。また、図書館については、直江津戦略プランと変わってきたので、もう少し固まってからでもいいが、地元機能等説明する場を作ってもら

いたい。

図書館は平成 22 年春にオープン予定。直江津駅前に図書館を持ってきたいという思いで検討を進めている。それには地元のサポートが必要と考えているので、一緒に取り組んでいきたい。また、教育委員会ではみんなの図書館事業もあるのでプレ図書館に絡めていくこともできる。平成 20 年 3 月末までに整備基本計画を出す予定である。

直江津駅前にコンベンションホールが無くなり、夜の賑わいが減少するが、弊害が出るのではないかと地元はどのように考えているのか？

図書館に対して、開館時間の延長や託児所等の要望はあるが、夜の賑わいについては意見集約をしていない。もう一つのホテルである程度のコンベンション機能は残るかと考えている。

歴史的な建物が公共事業絡みで無くなった。歴史的な建物の保存について、行政はどのように考えているのか？特に、ライオン像の建物の寄付の話が出ていると思うが進んでいるのか？

ライオン像の建物の寄付については、寄贈を前提に交渉をしており、年度内には結論を出したい。それ以外の保存計画はない。雁木については、保存活用支援制度があるので、地元と協議をしていきたい。

基本計画で前面に特色を出していきたい。

直江津地区水族博物館が掲載されていない。直江津には重要な計画。

数値目標はこれでいいのかと思う。富山市長や青森の加藤氏の話聞いたが、現実を認識した上で、夢を持た。当市の計画でも夢の部分をも市民にアピールするスローガンのようなものがあつた方がいいのではないか？このままでは認定をもらえるかが不安である。

全体が網羅されているが、どこを一番やりたいのかが分からない。また分かりやすい言葉も必要。

昔の街へ元通りにすることは先ず不可能であろう。歩いて楽しい街、高齢者など住みやすい街を目指す姿ではないか。

街の地価は高いときの半分以下に下がっている。逆に、中心市街地外の造成地は上がっている。

特色ある街を印象付けるものが必要である。

全部の事業を同時に進めることは不可能である。優先順位をつけていく必要がある。

市民に訴求していくため、ビジュアルで見える形を示し、まちづくりを打ち出していく必要がある。

ターゲットを定めない商売はない。ターゲットを設定して、向かう層を明確にして取り組んでいかなければまちづくりにつながらない。地域外から来てもらうための方策として、道や交通機関も含めた総合的な計画にしてもらいたい。

直江津は在来線問題が不安であるが、海の街を打ち出していくことが重要である。基本計画にはソフト事業を中心とした既存事業ばかり載っている。地元では、おいしい魚料理を食べられるところを実行したい他、安寿と厨子王を打ち出していくこと等を考えている。また、屋台会館の活用も必要であろう。まちづくりの住民 PR に行政は留意してもらいたい。

循環バスをワークショップで検討している。地元でぜひ進めて生きたいと考えて

いるので、行政からも協力をもらいたい。

単純に郊外型大型店を街中へ持ってくることは良いまちづくりではない。歩いて楽しく暮らせるまちづくりにするために、コンセプトをまとめてもらい、社会に沿ったまちづくりを進めてもらいたい。高齢者が住みやすい街としていくことがいいと思う。

基本方針でコンパクトシティを作っていくコンセプトを示してある。直江津は図書館～イトーヨーカ堂に海や工業を付加していく方針である。夢は必要であると思うが、5年で実行できる事業という枠があるため、まずは実行できる事業を載せている。認定後に、次のステップへの検討に移らせてもらいたい。

協議会委員や地元で事業を考えて、行政に提案していくことが重要である。

人口の変移を調べ、住みやすいまちづくりに絞って取り組んでいくことが必要。車を街に入れないということも工夫すればできる。

まちづくりには時間がかかる。自分たちの仕事を確実に、具体的に進めていくことが重要である。

協議会で生活しやすくなるルールを作っていくことも必要ではないか。例えば、税金を安くすれば駐車場を無料にする人もいる。総花的ではなく、集中的に取り組む必要がある。2つの中心市街地が必要なのか？直江津は住宅地とすれば住民が増えていくと思うし、それもまちづくりではないか。

まだ50点以下の基本計画である。市・議会・会議所と相談しながら、事業を付加していかなければ認定されないであろう。全国を見ても、提出した後半分は修正をされる。

エリアを面として捉えて取り込むことがポイントとなる。

マーケットが減少している状況で、市街地のターゲットを絞り込むことは難しい。但し、エリアを決めて、エリア内のターゲットを絞り、サービス・商業を提供していくことは可能であろう。

街並みを利用して、木造家屋を提供していくこともできるのではないかな？

直江津はこの内容では難しい。多額の税金が投入されている水族博物館・海浜公園・屋台会館等を活用する事業を計画するべきである。図書館だけで活性化ができるのかと本部は言うであろう。図書館等核施設に付加する枝葉の事業を10年後計画で検討し、方向性を出す必要がある。滞留時間を増やすために、街の中でも事業が必要になってくるので、行政と地元が中心となって、実行できるレベルまで押し上げてもらいたい。

本部も認定に苦慮している。協議会で基本計画を押し上げ、早く国との協議へ進めるように、協議会を進めてもらいたい。

佐藤会長より：基本計画案は全体を網羅した活性化計画が盛り込まれており、ほぼまとまったと思う。意見を早くまとめ、反映させた計画を次回までにまとめてもらいたい。協議会は承認をする総会の場に、事業は各プロジェクト会議で薦めていく方法を取っていきたい。また、幹部で協議を進めることを了承してもらいたい。国への提出が迫っているが、まちづくりは待っているような状況ではない。市には基本計画を練り直してもらい、特色を打ち出してもらいたい。

委員一同、会長の提案を了承し、議事を終了した。